

**事業所名** グループホームいつもえがおで  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 1月11日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 元介護支援専門員  
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員  
B:現職 介護支援専門員  
資格・経験 音楽療法士、介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者がストレスの無い良い思い出をたくさん作り、「良かったなあ。」と思える余生を過ごせるよう支援する。</li> <li>・スタッフとの信頼関係によって安心と尊厳が保たれ、一人ひとりが家族の一員となれる場作りをする。</li> <li>・ターミナルケアの要望に可能な限り応じていく。</li> <li>・感染・臭いのない空間の重要性を考え、殺菌と消臭に効果のあるヒノキの香りのする液体を入れた容器を設置するなど、清潔、かつ安全で快適な暮らしを送ってもらいたい。</li> <li>・グループホームの先進国から認知症介護についての知識を学び、認知症の障害を踏まえた環境をいつも提供できるよう、日々研究と実践を続け、今後、ますます時代に即したグループホームのあり方を目指していく。</li> </ul>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔使用していた馴染みの生活用品を各所に置き、時代が経つ雰囲気作りがされている。</li> <li>・2ユニットの利点を活かし、アルツハイマー型と脳血管性認知症とに分け、疾患の特性に適した空間とケア方法で支援し効果を上げている。</li> <li>・メインリビングのほかに先進的な建築環境を取り入れたサブリビングを数箇所作るなど、空間的工夫がみられる。</li> <li>・居室と共有の場(トイレ等)の木影のドアの色彩は、微妙な濃淡で区分され、全体的に圧迫感がなく落ち着いていた。</li> <li>・「グループホームいつもえがおで」の名称にふさわしく、職員の表情にやわらかい微笑があり、入居者・訪れる人に安心感を与えていた。</li> </ul>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### 外部評価の結果

**講評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

小高い山裾に沿って立ち並ぶ民家の一角に、当法人関連グループホームの施設が併設されており、地域の医療福祉の発展に大いに貢献している。地域の季節行事への参加、ボランティアの受入れ等地域交流に積極的に取り組んでいる。

竹垣に木造平屋建てのグループホームの外観は、和風の落ち着いた普通の暮らしが感じられる。スーパー、郵便局、銀行等が近く、生活にも利便性が高い。直ぐに近くを通るJR宇野線の駅が徒歩5分、高速道路水島インターが車で15分と交通にも便利である。

ホーム内の間取りには、動線上方感覚を助ける右斜めの壁や逃げ場としてのサブリビング等、認知症の特質を踏まえた環境に配慮され、医学的・科学的な視点でも先進的な設計がなされている。居室からは広々と見渡す限りの田園風景が望め、季節の移り変わりを満喫でき開放感が味わえる。

全人的なケア手法(本人の訴えを全面的に受け止め、共感していく)により、自立を支援している。支援を提供する側も入居者と共に生きる事の素晴らしさを感じられる支援をしていることが、一人ひとりのゆったりとくつろいだ様子から窺えた。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

改善ということではないが、オープンキッチン上の炊事道具等があと一歩整然とされていれば、より一層清潔感が増し入居者の安全が保持されると思われる。

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のプライベート空間の確保を共有空間の中にも取り入れられるようにサブリビングを設計し、他者の存在を感じながらも干渉されず、安心して自分だけの空間を楽しめるようにしている。</li> <li>・認知症であっても、人生を通して情熱を注いできた技や経験を最後まで花開かせる場となるように支援している。</li> </ul>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者は人材育成に非常に熱心であり、事務所には職員の教訓や自らの訓示を掲げている。管理者を始め、職員を広く導く体制をとっている。</li> <li>・施設内研修では、各部署ごとの事例研究発表会を開き、自己研鑽に努めている。</li> <li>・他のグループホーム交流も兼ねて、お互いの介護現場の評価を交し合い向上に役立っている。</li> <li>・職員の評価は管理者が行い、指導やミーティングの場を設けている。管理者が職員から評価される制度も取り入れ、管理者として自ら成長する機会を作っている。</li> <li>・問題発生時には、日頃からヒヤリハットや事故報告書に取り上げ、対応の経過・再発防止と今後の検討、改善の効果等について会議を持ち、詳細に記録している。大切な連絡事項は回覧版にして、職員全ての方が学習できるようサインで確認し、同じ事を二度と繰り返さない努力をしている。</li> </ul>		